

## 『第5回(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会』の報告

12月16日(土)午前、榎町地域センターにおいて、第5回検討会を開催しました。特別委員を除く26名の検討委員のうち、24名の参加により、(仮称)「漱石山房」記念館において展開する事業活動について、グループ討議を行いました。

## グループ討議の進め方

討議にあたっては、4つのテーブルを設け、各テーブルに、左記の4つのテーマを振り当てました。

- ① 展示
- ② 教育普及、利用者サービス
- ③ 資料収集、調査研究、情報提供・図書閲覧
- ④ 地域との連携

検討委員は、4つのテーブルを15分毎に移動することで、すべてのテーマについて意見を述べました。各テーブルでは意見を書き出し、最終的にテーマ毎に1枚の模造紙に集約し、討議終了後、発表を行いました。

質疑応答ののち、学識経験者より講評をいただきました。



## 事業活動に対する主な意見

## ① 展示

## ・「漱石山房」復元展示

できるだけ正確に、精密に復元したい。庭の植栽も再現する。書斎の見学方法については、時間を区切るなどにより、漱石が座っていた場所に座って漱石の気持ちになつてみる体験もできるとよい。

## ・常設展示

漱石の人物・生涯・作品紹介、書簡などの一次資料、木曜会、作品の名シーンの再現、研究成果の報告等をテーマに展示する。

## ・企画展示

映画化された作品の上映も含め、多彩なテーマで、年3〜4回開催したい。

## ② 教育普及、利用者サービス

## ・利用者像

漱石ファン、文学ファン、子どもたち、高齢者、主婦等、幅広い利用者を想定。

## ・教育普及事業

講座、映画上映会、演劇公演、落語実演、朗読会、読み聞かせ等のイベントを、小中学校、大学等との連携により開催する。

## ・利用者サービス

カフェを設置し、名物菓子を提供したりオリジナルグッズを販売するほか、猫や文鳥、愛犬ヘクトーをモチーフとしたキャラクター開発等、柔軟な発想で活動を展開する。

## ③ 資料収集、調査研究、情報提供・図書閲覧

## ・資料収集

実物資料に加え、漱石の初版本等を中心に、翻訳された漱石の著作等も視野に入れ、できる限り収集を行う。

## ・調査研究

漱石文学による社会や後の作家への影響、漱石の世界観、世界における位置づけ、妻や家族等をテーマに、専門学芸員により推進する。

## ・情報提供・図書閲覧

漱石の全著作が閲覧でき、また、漱石に関する資料や諸情報を得られるレファレンス機能を整備する。他の文学館と連携するほか、ICTの活用を推進する。

## ④ 地域との連携

## ・まち歩き

漱石が歩いた散歩道等まち歩きのコースを設定し、地図やガイドボランティア制度を充実するほか、周辺エリアの整備を行う。

## ・活動支援

町会等地域団体との交流、地元の商店や飲食店、企業等との連携事業、学校・大学、周辺施設との連携体制の構築等を行う。

## 委員の感想・意見

・漱石の学術的な資料を蓄積・保存すること、記念館を広く発信・活用していくことには、相対する要素もあるが、どちらも追及する必要がある。建築の訴える力は大きいので、注目されるものになってきたらよい。

・近代化の中で、アイデンティティをどう見つめるか悩み、時代と格闘したアジアで最初の知識人が漱石だとも言われる。また、そこが漱石作品の今読んでも面白い部分。「世界の中の漱石」「アジアの中の漱石」を展示等の目玉にできないだろうか。

・漱石はベースにあるが、地域の方々のための施設として、訪れるだけで幸せになったり、感動したりできるような記念館になるとよい。

・「漱石山房」はガラス戸を閉じている時期と開け放している時期と2つの姿がある。開閉に合わせて季節毎にイベントを行うこともできる。今後、漱石の作品や言葉と記念館での事業展開をつなぎ合わせる工夫が必要。

・作って終わりではなく、そこをスタートにどう育てていくかというロードマップが大事。地域密着型での日常がないと成り立たないだろう。大学との連携を運営のベースに取り込むほか、住民や漱石のコア的なファンなど様々な人の役割をロードマップに位置付けた運営組織を作る。今日の意見をスタート時に全部整備するのは難しいが、中長期の展望の中で目標として取り組んでいけるようにできれば良い。